

1 「本質的な問い」による単元構想について

- 本単元の本質的な問い「重さは、わたしたちの生活にどう関わっているのか？」に対して、児童が問い続けたいような身近なパフォーマンス課題を設定した。重さという目には見えない量を学習するにあたり、郵便物の送料に視点を当てることにした。単元の導入部分では教師の失敗談を紹介した。送料を間違えて、郵便物が返送されていたというエピソードから、興味・関心を深めることができたと考えられる。本時においても、「別々に送った方が、安い場合もある。」ということがわかり、驚きとともに学習に対する意欲を深めることができた。そのような経験を通して、日常の出来事を算数的な視点で捉えるような視点が自主学习などで見られるようになった。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

	知識・技能 (単元テスト正答率)	思考力・判断力・表現力(振り返りの記述内容の評価)		
		A	B	C
本単元	91%	40%	51%	9%
1学期学習単元	89%	32%	59%	9%

育成を目指す資質・能力に関する結果(本単元と1学期学習単元の比較)

【知識・技能】

- 単元テストにおいて、本単元と1学期学習単元の正答率を比較すると、知識・理解の領域が2ポイント上昇した。身近な問題に視点を当てて学習課題を設定したことにより、意欲を喚起することができた。課題解決を行うためには、知識・技能が必要であるため、児童が主体的に獲得した結果であると考えられる。

【思考・判断・表現】

①一番上のたんいは、何なのか、調べてみたいです。また、1000倍になるのかなと思います。

②昨日、家でミリ(m)をつけると、1000分の1になることを発見しました。

A評価児童①の学習の振り返りの記述内容

A評価児童②の振り返りの記述内容

- 振り返りの記述内容の評価において、1学期と比較すると、A評価の割合が高くなった。A評価児童①の学習のまとめの記述には、未習事項に対する自発的な疑問と予想が書かれていた。また、A評価児童②の振り返りには、自分自身が発見した喜びを表現していた。
- 課題としては、振り返りの記述についてC評価児童の割合が変化しなかったことが挙げられる。9%の児童は、自分の考えを適切な言葉で書くことができなかった。しかし、授業中には積極的に発言したり学習活動に取り組んだりしているので、自分の考えを適切に表現できるよう指導方法について研究を深める必要がある。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 重さの学習内容を生活に生かすことについて児童が考えた内容は右の通りである。自分自身の生活の中に、既習事項を生かし、その経験を記すことができた。

①家ではかりを使いました。はかりに、ボールをおいてその上に小麦粉をのせました。全体の重さから、お皿の重さを引くと、小麦粉の重さがわかりました。小麦粉を、紙の上においたり、よごしたりせずに、はかれました。

②りょう理の作り方を調べると、水を何g入れてくださいと書いてありました。その時にも、重さの勉強が役立ちました。

「重さの学習を生活に生かすこと」についての児童の記述

- 「本質的な問い」に対して、児童自身が、今後ともずっと探究し続けていくことを期待したい。「重さは、わたしたちの生活にどう関わっているのか？」と児童自身が問い続けるために、郵便料金の節約に関することを継続して話題にする、教室に秤を置いて雨の日の休憩時間などに自由に量る活動を仕組む等、指導方法を工夫していきたい。

3 「デジタル機器」の活用

- 全体解決の話合いの場において、ロイロノートの提出箱の機能を使い、児童の意見を色分けして提出させた。画面を共有し、意欲的に学習に参加できる手立てとした。考えが変わった児童にカードを提出し直させ、思考を揺さぶったり、考えを深めさせたりすることができた。